

ベトナム語における「黄色い語」と「赤い語」 に関する考察

田原 洋樹¹

要 旨

いわゆる『ベトナム戦争』は1975年4月に終結し、その後に南北統一国家としてのベトナム社会主義共和国が成立した。終戦、そして統一国家成立の一方で、ベトナム南部にあったベトナム共和国が消滅した。

このベトナム共和国で行われていたベトナム語と、現在のベトナム社会主義共和国のベトナム語には、語彙選択や「好ましい」とされる語法、および正書法に差異が認められる。

本稿は、主としてアメリカ・南カリフォルニアに居住するベトナム系住民の言語生活を観察することで得られた、旧ベトナム共和国のベトナム語『動態』について、わけても語彙レベルの考察を試みたものである。

キーワード: ベトナム共和国 異郷のベトナム語 黄色い語 赤い語 赤い語法

1. はじめに

ベトナムの歌謡曲が話題に上るとき、その楽曲が *nhạc vàng* なのか *nhạc đỏ* なのかという区別がある。前者を直訳すれば「黄色い音楽」であり、後者は「赤い音楽」である。ただし、ここでの黄色や赤とは色彩ではない。黄色い音楽とはかつて存在したベトナム共和国時代に流行した楽曲であり、赤い音楽とはベトナム民主共和国、南ベトナム解放戦線、現在のベトナム社会主義共和国で発表された楽曲を意味する⁽¹⁾。

果たしてこの二色の区別は音楽にとどまるのだろうか、という問題意識を持つようになった筆者は1998年1月から数次にわたり、現在はアメリカに在住する旧ベトナム共和国出身者たちに聞き取り調査を行ってきた。脱出の経緯、アメリカでの生活全般、とりわけベトナム語の言語生活や子女の教育問題などについて、比較的穏やかな茶飲み話として聞くこともあれば、現体制に対する舌鋒鋭い批判を含めた刺激的な会話になることもあり、多様な考えかたと価値観に接することができた。

こうした会話の中で、筆者が話す、現在のベトナム社会主義共和国で日常的に使われている表現を修正されることが幾度もあった。「共産主義的だ」、「我々はその語を使わない」という批判的修正である。筆者のベトナム語が「共産主義的」かどうかは別として、91年からベトナム語を学習し始めた言語は、紛れもなく現在のベトナム語、敢えて言えばベトナム社会主義共和国で行われているベトナム語である。そして、会話相手のベトナム語は旧ベトナム共和国のベトナム語である。あるいは、離れた時点では既に「ベトナム社会主義共和国」（以下では単にベトナムとする）となっても、自らが心の拠りどころとする、この世には存在していない「ベトナム共和国」（以下では単に旧南ベトナムとする）という国のベトナム語である。意識的に旧南ベトナムのベトナム語を使用することによって、旧南ベトナムへの恋慕、現在の政治体制に対する反発など、複雑な祖国愛を維持しているようでもある。繰り返しになるが、この「祖国」はしかし、現実には存在しないのだ。

さて、ベトナム国外に居住するベトナム系住民は、アメリカのみに存在するのではなく、フランス、ロシア、日本のほか、ベトナム民主共和国時代からの伝統的な友好国であるチェコ、ポーランドなどの旧東ヨーロッパ諸国にもいる。筆者は、出国の経緯や時期、そして現在の政治体制との関係などの区別から離れて、ベトナム本国外に居住するベトナム系住民、すなわち *người Việt Nam định cư ở nước ngoài* (外国在住ベトナム人)、*người gốc Việt* (ベトナムにルーツをもつ人) が生活言語として使用するベトナム語について、『異郷のベトナム語』と名付けて、言語動態を観察してきた。

¹ 立命館アジア太平洋大学 (APU) 准教授

e-mail:tahara@apu.ac.jp

本稿は、この『異郷のベトナム語』のなかでも、人口が多く、エスニックメディアが発達していて言語の差異が顕在化しているアメリカ在住者、特に南カリフォルニア・リトルサイゴンの住民たちの言語動態を観察しながら得た結果のうち、語彙レベルでの差異を対照、まとめたものである。

2. 「黄色い語」「赤い語」とは

そもそもベトナム語の変化について、もっとも敏感なのは国外に居住するベトナム系の人々である。自分がかつて祖国で使用した言語、すなわち自己の言語体験と、現在のベトナム語の動態を容易に対照できるからだ。

オーストラリア在住のベトナム研究者グエン・フン・クオックは、Voice of America (VOA) のホームページ上に開設するブログで以下のように述べている。

わたしが初めてベトナムに帰ったのは1996年である。4週間滞在した。もっとも印象的だったのはベトナム語が変わっていたことである。初めて耳にする言い回しも多くあった⁽²⁾。

ここで言う「初めて耳にする言い回し」は若者言葉のことではなく、旧南ベトナムでは用いることがなかった表現である。

また、アメリカ在住のベトナム系住民レ・ズイ・サンは自らのブログで *Không dùng ngôn ngữ của Việt Cộng* (ベトナム共産主義者の言語を使わないように) と題したコラムを綴り、語彙レベルおよび文レベルでの対照を試みている⁽³⁾。

ここに、筆者は「黄色い音楽」と「赤い音楽」にヒントを得た *từ vàng* 「黄色い語」と *từ đỏ* 「赤い語」の対照を着想した。インターネット上に、前者については *cách nói VNCH* (ベトナム共和国の言いかた)、*từ ngữ VNCH* (ベトナム共和国の語彙)、後者は *cách nói VC* (「ベトコン」の言いかた) という表現が多くみられる。これらは主として旧南ベトナム国民の立場から書かれている。失われた祖国への想いや、現体制への憎しみが「黄色い語」への回帰を強く働きかけ、同時に南北統一後のベトナムで使われるようになった語や表現への嫌悪と侮蔑に満ちている。ただ、本稿はベトナム語の変容を記述的に研究することを目的としているので、当事者たちの感情とは別に、言語動態を淡々と見つめていくことにしたい。

サンスのブログ記事によれば、「この話を聞き終わった後、あなたの感想を聞かせてください」と言うときに、以下のような差異が見られるという。

(VNCH) Xin anh cho biết cảm tưởng/cảm nghĩ của anh sau khi nghe xong buổi nói chuyện này.

(VC) Xin đồng chí cho biết cảm giác của đồng chí sau khi nghe xong buổi nói chuyện này.

VCでの人称詞が *đồng chí* (同志) となっているのはややオーバーだろう。統一直後のベトナムで出版されたベトナム語教材では二人称の *đồng chí* が出てきたが、ベトナム共産党大会でのスピーチ、黨員同士の会話以外でこの語を耳にすることは、今日ほとんどないからである。むしろ、ここで着目すべきは *cảm tưởng* または *cảm nghĩ* (意味はどちらも感想) と *cảm giác* (感覚) の差である。後者が大袈裟な印象を与える。小さなことを大きく、は「赤い話法」の特徴のひとつとされる。

他方で筆者は、大きなことを小さくして、しかし身震いするほど恐ろしい表現を体験している。

Mời anh đến làm việc. 用事があるので来てください。

留学生としてベトナムに滞在していた時代に、当時は禁止とされていたベトナム人一般家庭での宿泊が発覚した際、警察官に言われたものである。*làm việc* は「仕事をする」と習い、*mời* は「招く」「招待する」と覚えていた筆者は、柔らかな語彙とは裏腹に有無を言わせぬ警察官の表情とともにこの言語風景を忘れることができ

ない。後年、「黄色い語」「赤い語」に注目するようになってからアメリカで知り合ったベトナム系住民にこの話題をしたところ「貴兄が身震いするほど怖かったのは、正しい言語感覚だ。なぜなら、旧南ベトナムで政府要職にあった者、軍や警察関係者などが『呼び出し』を受けるときに、彼ら(=現体制)が用いた表現のひとつが、まさにそれであった」「これで『呼び出し』されて行き、そのあとには *trại cải tạo* (改造キャンプ) という名の刑務所に収監された」などの反応があった。なお、後述するが、実質的には強制収容所ないし刑務所であったものを *trại* (キャンプ) とし、強制労働や思想教育を *cải tạo* (改造) と呼ぶのは「赤い語法」といえるだろう。

合わせて、大きな問題を曖昧化したり、矮小化して表現するのも興味深い。

có quan hệ xấu よくない関係を持つ

có hành vi tiêu cực 消極的な行為をはたらく

これらは、高官や一般公務員などが何らかの違法行為で摘発されるときに用いられる表現である。「よくない関係」や「消極的な行為」とは、ベトナム国内で生活するベトナム人にはおおそ贈収賄の意味として理解される。何を、どのように「消極的に」行ったかがどこにも顕在しないが、しかし内容が伝わっている。

同様に、*phi vụ* という語も印象的だった。かつて高官が急に辞職した際、新聞では「辞職の理由は子弟の *phi vụ* による」と報道された。この *phi vụ* は「あるまじき行い」を意味するが、一体どんな *phi vụ* だったのかは報道されず仕舞いであった。もちろん、庶民の口コミや噂話では中身が漏れ伝わるのだが、公式には最後まで *phi vụ* による辞職であり、どんな *phi vụ* だったのか、あるいはそもそも *phi vụ* という語自体にどんな行為が含まれるのかは明らかにならなかった。

1990年代前半、筆者がホーチミン市に留学した当時、ベトナム人の知人たちが親しげに話しかけてくれた表現に以下のものがある。

Em có mạnh giỏi không? 元気ですか。

この *mạnh giỏi* (達者だ、元気だ) を耳にすることは、最近のホーチミン市では皆無だ。リトルサイゴンのベトナム系住民社会では今も使われているが、ベトナム国内では南部の農村住民、しかもおおそ70歳以上の世代に用いられるのみで、すでに絶滅の危機に瀕している感すらある。

他方で、2015年11月にリトルサイゴンで調査活動していた筆者を *Saigon TV* が取材して、約30分のトーク番組を制作した⁽⁴⁾。トークの内容について、おおまかな事前打ち合わせがあったので、久しぶりにベトナム語でメディア出演となった筆者は自分のコメントをメモ書きしておいた。収録直前のリハーサルで、対談相手の Q 氏から語彙の修正を求められた。

Mỗi năm khoảng 100 người đăng ký học tiếng Việt. 毎年、約100人がベトナム語を履修する。

Mỗi năm khoảng 100 người ghi danh học tiếng Việt.

上の表現の *đăng ký* が “*không hay*” (好ましくない) ので *ghi danh* に修正を、ということである。なるほど、90年代前半のホーチミン市内では、たとえば英会話学校の広告や看板に *nơi ghi danh* (登録窓口) のような表現を頻繁に見かけた。現在では「申し込む」「登録する」の意としては *đăng ký* が一般的である。Q 氏はこの *đăng ký* が「赤い語」で、当地のベトナム系住民が忌み嫌う語であると解説してくれた。

ここにおいて、「黄色い語」と「赤い語」の分類に一定の規則性をまとめてみたい。

「黄色い語」とは、(a) 旧南ベトナムで使用され、現在のベトナムでは使用が禁止あるいは躊躇されている語や表現、(b) ベトナム南部の農村部や高齢者に引き続き使用されている語および表現、である。ただし、(b) のケースは日常会話で見られるのみで、公式の場面で使用されることはほとんどない。

他方で「赤い語」とは、(a) もともとは旧北ベトナムで使用されていた語や表現、(b) 共産党、共産主義を惹起させるような語と表現、となろう。さらに、(c) 元来の意味や用法から離れて特別の意味を帯びて使用される語、すなわち「赤い語法」もここに含まれる。ただ、気を付けておきたいのは旧南ベトナムの国民には南部以外の出身者も含まれていることである。1954年、ジュネーブ協定でベトナムが南北に分断された際に、100万人以上の北部住民が南部に逃れていった。彼らは北部方言話者である。したがって、北部方言そのものを「赤い語」「赤い語法」「赤い話法」とするのは不適切だし、旧南ベトナムのベトナム語と現在のベトナム語南部方言を同一視することは避けるべきである。

3. 「赤い語法」～サイゴン解放か、サイゴン陥落か

先に取り上げたQ氏はカリフォルニア州内の大学でベトナム語を教授している。また、州内ではベトナム系の児童生徒およそ15,000人がベトナム語を学習する⁽⁵⁾が、このベトナム語教師たちに対するベトナム語学、教育技法の指導も行っている人物である。もともとハノイ出身だったQ氏は1954年の南北分断時に家族で南部に移住し、亡命後の今に至るまで家庭においても公共の場においてもハノイ方言を話している。

このQ氏は筆者に対して、リトルサイゴンで初めて会った2014年11月に、昼食をともにしながらベトナム語で「なぞなぞ」を出してきた。「75年4月30日の出来事を何というか」である。筆者は以前のインタビューやエスニックメディアの記事により、ベトナム系住民の社会では、ベトナム本国での表現 *giải phóng Sài Gòn* (サイゴン解放) が激しく忌避されていることを知っていたので、代わりに *sụp đổ* (陥落) を使って答えおいた。「その通り。リトルサイゴンにいる間、貴兄はここに暮らす人々のベトナム語を尊重すべきだ。現在の政治体制から命がけで脱出してきた人ばかりだから、当地では陥落以前のベトナム共和国で用いられていた表現に馴染むように」と助言も受けた。

のちに親しくなったリトルサイゴンの友人たちは「そもそも *giải phóng* の意味は何だ? 困難や苦痛からの解放だろう。障害物の除去だろう。4月30日以降の我々の苦しみが *giải phóng* の賜物なのか」「*giải phóng* を一度でも辞書で引いてみたことがあるか。100万以上の人間が、なぜ *giải phóng* されたはずの楽園から命がけで脱出するのか」などと問いかけてくる。ただし *giải phóng Sài Gòn* は「赤い語法」の究極のひとつであろう⁽⁶⁾。

なお、アメリカ合衆国のベトナム系住民のうち、リトルサイゴン以外においても、たとえばハワイ州に居住する宗教関係者たちにインタビューしたことがある。自分たち亡命者に対するアメリカ政府の政策への感謝、ベトナムの現体制に対する恐怖や嫌悪を語る一方で、個人的な感触と断りながらも、ハワイ州には約7,000人のベトナム系住民が居住しているが、一般に「リトルサイゴンにおける過激な反共活動にも心理的な距離感を感じている」と述べた⁽⁷⁾。彼らも *giải phóng* とは、しかし一度も口にしなかった。

98年から断続的に実施してきたホノルルでのインタビュー、そして2014年に着手したばかりのリトルサイゴンでの調査による管見では、政治体制に対する態度や言動には確かに温度差を感じる。ベトナム脱出後に本国に「帰国」したことがあるかを問う筆者に、「現在の政治体制が続く限りは絶対に帰らない。母親が他界したときにも帰らなかった。この地(リトルサイゴン)でひたすら読経して成仏を祈り、そして自由祖国の奪還への決意を新たにしたい」と厳しい表情で答える宗教人がいる一方で、「90年代前半までは難しかったけれど、最近では毎年帰っている」と答える者がある。が、*giải phóng* や *cải tạo* に代表される「赤い語法」への強烈な嫌悪感や、4月30日を *ngày Quốc hận* (国恨の日) と呼んで祖国滅亡を悲しみ、そして本国では公に祭られることがない旧南ベトナム国軍の戦死者を追悼する⁽⁸⁾ 姿は共通だ。

いまひとつ考察しておきたい「赤い語法」に *văn hóa* (文化) がある。ベトナム国内を移動していると、都市部であれば住宅街の入り口に *tổ dân văn hóa*、農村部や漁村などでは国道から集落へと通じる道路に *thôn văn hóa* や *làng văn hóa*、*ấp văn hóa*、*bản văn hóa* と書いてある看板を目にする。看板の意味はおおむね「文化居住区」「文化集落」である。そして、「文化居住区」や「文化集落」を構成するのは *gia đình văn hóa*、すなわち「文化家族」だ。これらの *văn hóa* とは、学問や芸術、宗教などの意味ではない。たとえば、*gia đình văn hóa* の定義⁽⁹⁾ には第一に「党の路線や主張、国家の政策および法律を遵守し、各級地方レベルで実施される競争に積極的に参加すること」が上げられている。同じく *tổ văn hóa* や *thôn văn hóa* などについても「党の路線や主張、国

家の政策および法律を整齐と執行すること」が認定基準とされている。つまり、*văn hóa* とは「党の路線や主張、国家の政策および法律の順守」の意であり、また『党』と『国家』の出現順序にも着目しておきたい。図書館や運動場、文化会館などの施設が揃っている文化的な生活環境の意味ではない点に注意したい。

したがって、リトルサイゴンなどのベトナム系住民にとって、*văn hóa* の教育とは格別の吟味を要する行為となる。それがベトナム伝統文化を伝承・教育する営みなのか、思想付きの何かなのか、あるいは思想そのものの持ち込みなのかに対する警戒である。実際に、文化教育を巡ってはベトナム系住民の間でも大きな論争があったばかりである。ベトナム民族の伝統文化や生活様式を体験させるにはベトナム本国への研修旅行が有益だとする考えと、本国での研修には「ねつ造した歴史教育」が付随する危険がある、現体制による思想教育や洗脳につながり、これを断固拒否すべきだとする考えが衝突した。後者に属する人々は「*văn hóa* の意味が違うのだ。自由主義国で使う *văn hóa* と、本国での *văn hóa* は別物」と主張した。まさに、*văn hóa* の「赤い語法」を指摘したのだ。

なお、筆者自身の通訳翻訳経験に立ち返れば、*gia đình văn hóa* を字義通りに「文化家族」と訳して了とする態度は避けるべきだ。意味が全く通じない。同様に、外国語としてのベトナム語学習者に対して文献講読を指導する際には、*văn hóa* = 文化だけではなく、その語が持つ意味や社会的用法を丹念に解説する必要がある。

付言しておく、東日本大震災後、ハノイの日本国大使館の外壁に「日本国民はベトナムの支援に感謝する」趣旨の横断幕が掛けられていたが、ベトナム語訳においては『日本国民』が *nhân dân Nhật Bản* となっていた。『国民』の訳語は *nhân dân* でよいのか、不満が残った。難しい語の翻訳が難しいのではなく、日常生活で使い慣れた語を意味が正しく通じるように訳するのが難しいことを物語る例である。なお、筆者の言語感覚では *công dân* である。

同様に、*tiêu chuẩn* は「黄色い語」としては単に「標準」「基準」の意味しかないが、「赤い語」として「特別な手当、割り当て」を意味する。したがって *có tiêu chuẩn* とあれば、それは標準やスタンダードの話題ではなく、「手当や割り当てがある」と解釈するのが正しい「赤い語法」である。

「赤い語法」の理解は、ベトナム事情の理解に直結するのだ。

4. 「黄色い語」「赤い語」の対照

ここまで論じてきた内容に即して、代表的な黄赤語彙対照を試みたのが次の表である。

対照については、インターネット上に多くの情報がある⁽¹⁰⁾。また、1冊の書籍にまとめられているのが *Nhóm Thực Hiện Từ Điển Việt Nam Tại Hải Ngoại* (海外でベトナム辞典を実現するグループ) による *Đề nghị thống nhất cách viết chữ Quốc ngữ* (クオックゲー統一に関する提議) である。2013年にアメリカで出版された同書には「国内のベトナム語と海外のベトナム語」と題する章があり、「国内のベトナム語」のアルファベット順に整理されている。ただし、政治体制の変化による政府機関や行政区分の変更は、本来は「国内」「海外」の差ではないし、国名や地名の表記方法が異なるのも「国内」「海外」による違いというよりは時代の推移や国際情勢に伴う変化と解釈すべきである。そこで、対照に際しては同書だけに依拠するのではなく、ベトナム国内の言語状況を観察してみることに、国内外の言語学者にインタビューを実施することを主軸に据え、さらに黄赤のいずれかの立場を支持または弾圧する態度を避けることを心かけた。先行研究に触れるたびに、逆るそれぞれの思いに圧倒され、不偏不党に記述することの困難を味わってきた。そして、格別の思い入れを持たずに記述できる『余所者』ならではの無味無臭な対照であるとなったのは皮肉である。

A 政治体制の変化による政府機関や行政用語の変更

75年以前のベトナム共和国と現在のベトナム社会主義共和国は、異なる二つの国家であるから、本項の差異は当然である。

| | |
|-------------------------------------|---|
| 黄色い語 | 赤い語 |
| công dân 公民、国民 | nhân dân 人民 |
| Quân lực Việt Nam Cộng Hòa ベトナム共和国軍 | Quân đội nhân dân Việt Nam ベトナム人民軍 |
| thẻ căn cước 身分証明書 | chứng minh nhân dân 人民証明書 |
| tổng trưởng 大臣 | bộ trưởng 大臣 |
| | nhà giáo Nhân dân 人民教育家 nhà giáo ưu tú 優秀教育家 * 優れた教師に与えられる国家称号。教育家のほか に芸術家、医師および薬剤師に同様の制度がある。 レベルは nhân dân > ưu tú |

B 国名や地名の表記方法の変化

75年以前には漢越語を用いた表記が多かったが、近年では英語の綴りをそのままベトナム語に取り込み、英語の発音で呼ぶように変化した。

ただし、かつて首都だったサイゴンについては、国際社会でホーチミンシティ、あるいは単にホーチミンと呼ばれることが一般的になった今でも Sài Gòn のままである。Thành phố Hồ Chí Minh という地名そのものが「赤い」と考えられているからだ。この地名、さらには元となっている人名は、リトルサイゴンにおいて最も忌避されている語のひとつである。なお、サイゴンの綴りには、当時 Sài Gòn という書きかたも多くみられた。

| | |
|---------------------|-------------|
| 75年以前 | 現在 |
| Gia Nã Đại カナダ | Canada |
| Tân Gia Ba シンガポール | Singapore |
| Phi Luật Tân フィリッピン | Philippines |

他方で、Tiệp Khắc (捷克的漢越語音。チェコ) のように、かつての Tiệp Khắc (あるいは単に Tiệp) と「チェコ」の音を取り込んだ Cộng Hòa Séc (チェコ共和国) が併用されているケースがある。また、韓国、北朝鮮の呼び方は、その時々国内事情を如実に反映している。韓国は、旧南ベトナムでは「大韓」のベトナム語音である Đại Hàn であった。統一後のベトナムでは、「南朝鮮」を意味する Nam Triều Tiên が一般的であった。90年代前半までに使用されていたベトナム語教科書には Nam Triều Tiên が出ていた。「北朝鮮」は単に Triều Tiên とされることが多く、つまり無標が北朝鮮であったことになる。その後、韓国との外交関係樹立を経て、「韓国」のベトナム語音 Hàn Quốc が急速に普及した。なぜ Đại Hàn を用いないのか、と質した筆者に対して、あるベトナム人は「Đại Hàn という語には戦争中に韓国人がベトナムに与えた『よくないイメージ』を惹起させるからではないか」と述べた。

| | |
|------------|--------------------|
| 75年以前 | 現在 |
| Đại Hàn 大韓 | Hàn Quốc 韓国 |
| Bắc Hàn 北韓 | Bắc Triều Tiên 北朝鮮 |

なお、BBC のベトナム語放送では、現在も Bắc Hàn を使用している。

C ベトナム国内で最近では耳にしない「黄色い語」

表の中欄が最近の言いかた。在米ベトナム人のウェブサイトではこの語群を「赤い語」としているケースが多い。田原(2010)で取り上げた、xuất cảng【出港】(輸出する)が今では xuất khẩu【出口】と言われるケースなどである。

| 黄色い語 | 赤い語 | 変化の理由 |
|-----------------------------|-----------------|----------------------|
| manh giới 元気な、達者な | manh khỏe | 北部の表現が定着。 |
| nhà băng 銀行 | ngân hàng | 南部の口語表現が消滅。 |
| nhà thương 病院 | bệnh viện | |
| đương cầm 【洋琴】 | Piano | 脱「漢語」化。【】内は当該漢越語の漢字。 |
| hội Hồng thập tự 赤十字社【社赤十字】 | hội chữ thập đỏ | |
| hoa liễu 性病【花柳】 | da liễu | |
| ngoại quốc 外国【外国】 | nước ngoài | |
| phi trường 空港【飛場】 | sân bay | |
| thân hữu 親友【親友】 | bạn thân | |
| sổ thông hành | hộ chiếu 【護照】 | |
| thứ nhất 第1の | thứ nhất | |
| Nhật Bản 日本 | Nhật Bản | |
| chính phủ 政府 | chính phủ | |
| sinh 産む | sinh | |
| gởi 送る | gửi | |
| thơ 手紙 | thư | |
| bệnh viện 病院 | bệnh viện | |

D 品詞転換

| 語 | 黄色い語 | 赤い語 |
|----------|----------------|----------------------------------|
| kỷ luật | 名詞「規律」「規則」の意味。 | 名詞「規律」「規則」。 動詞「規律違反した者を処分する」。 |
| lãnh đạo | 動詞「けん引する」「導く」。 | 動詞「けん引する」「導く」。 名詞「指導者」。 |

E 意味変化

| 語 | 黄色い語 | 赤い語 |
|--------------------|--|-----------------------------|
| cải thiện 【改善】 | 動詞「改善する」。人間性や道徳などに用いる。 モノや状況の『改善』についてはcải tiếnを使う。thiệnは『善』であり、対象は人間のみ。 | 動詞「人間、モノ、状態がよくなる」。 |
| chất lượng 【質量】 | 該当語ナシ。 | 名詞「品質」「価値」。 |
| bồi dưỡng 【培養】 | 動詞「栄養を与える。培養する」。 | ほかに「チップを与える」「金品を余分に与える」の意も。 |
| liên hệ【連係】 | 動詞「関連性を持ち合っている」「関係ある」。 | 動詞「関係を持つ」「関連する」「連絡する」。 |
| liên lạc【連絡】 | 動詞「連絡する」。 | 動詞「連絡する」。 |

5. 今後の展開

本件研究は、ベトナム戦争をはさんだ半世紀でのベトナム語の語彙変化を考える端緒となった。本論文では主として「黄色い語」「赤い語」の対照を試みたが、「赤い語」の中を見ると、戦後直後とドイモイ政策開始後では人民生活に関する語彙に変化が観察される。配給制の導入と廃止、商店での販売スタイルの変更など、社会変化との対照を心がけながら、これらの語彙変化を集中的に研究してみる必要がある。

また、最近気になっているのが、「好まれる話法」の変化である。言論の自由、不自由という問題に起因する、社会主義圏独特の話法がある。支配政党のスローガン、公式スピーチや文書に溢れる「赤い話法」は、もちろんその時々の言語生活に直接影響を与える。自己の感情をどう表現するのか、他人に依頼するときにはどうするのかなどは、ベトナム語自身の変質とは別に、ベトナム人の日常生活のグローバル化、畢竟英語化とも密接な関係があろう。このような話法の変化を通時的に振り返り、記述することも重要である。

翻ってみると、筆者がベトナムに留学した1992年前後というのが、旧南ベトナムの語彙、つまり本論文分類でのCに属する語を、ベトナムで日常的に耳にし、また自分自身が使った最後の時代だった。街の看板や行政機関の表札にもCの表記で記されたものがあつた。96年から99年まではハノイでの生活、しかも大使館勤務という特殊な環境にあり、市井の人々と自由に談笑するよりも、党や政府の要人との意見交換や会談がほとんどで、まさか「黄色い語」はそこでは出現しなかった。この間のホーチミン市の状況を観察する機会は少なかつたが、2000年代に入ってから、**「サイゴン人」**を自称する人々との会話でもCは激減していた。そもそも大都市への人口流入が激しいのだが、旧南ベトナム時代の語彙に知悉した若者に会うことは皆無だ。

少なくとも言語動態を見る限りでは、今もつとも**「サイゴンっまい」**ベトナム語の語彙は、ベトナム最大の都市を、『建国の父』の名にちなんで改称された名前ではなく、日常的には今でもサイゴンと呼ぶ、そのSài Gònという地名なのかもしれない。

注

- (1) 国旗を考えると、黄色と赤色の区別はなるほど言い得て妙である。しかし、ベトナム語の vàng には「黄色い」、「金」、「金色」の意味もあり、「黄色い音楽」は直訳にすぎる感も否めない。
- (2) <http://www.voatiengviet.com/content/hien-tuong-phan-ngon-ngu-o-vietnam/1507491.html> 最終閲覧日 2016 年 2 月 16 日
- (3) <https://hoangkybactien.wordpress.com/about/khong-dung-ngon-ng%E1%BB%AF-VI%E1%BB%87T-C%E1%BB%99NG-1/KHONG/> 最終閲覧日 2015 年 2 月 15 日
- (4) 南カリフォルニアを放映圏内とするベトナム語放送局。当該番組は Thủy Vân 女史が司会する Talk Show。2015 年 11 月に 3 回放映された。
- (5) 2015 年 11 月、カリフォルニア州ガーデングローブ市における聞き取り調査中の発言。なお、久保田・北山 (2010:12) によれば、1998 年には 8000 人であった。
- (6) 「ベトナム戦争」を Chiến tranh chống Mỹ cứu quốc (抗米救国戦争) と呼ぶのも同様と考えられる。なお、黄色い語での呼びかたのひとつに Chiến tranh Quốc-Cộng (国共戦争) がある。
- (7) 2012 年 9 月、ハワイ州ホノルル市における聞き取り調査中の発言
- (8) ベトナム国内での烈士追悼碑には通常 Tổ quốc ghi công と書いてあるが、カリフォルニア州で見かける同様の碑には Tổ quốc ghi ơn の文字がある。tổ quốc は共通する語であるものの、指し示す国は異なり、その碑に刻まれるのは、それぞれの国に殉じた者の氏名である。
- (9) <http://www.kinhtevimo.org/2015/07/lan-man-ve-danh-tu-cong-san/>
ほか、http://vietstudiesinfo/kinhte/TuDien_DCSVN.htm、<https://vietbao.com/a108177/bang-doi-chieu-tu-ngu> などがある。
- (10) ベトナム司法省 http://www.moj.gov.vn/vbpq/Lists/Vn%20bn%20php%20lut/View_Detail.aspx?ItemID=27229 最終閲覧日 2016 年 3 月 12 日
- (11) Lê Văn Đức, *Tự điển Việt Nam* 参照

参考文献

- 久保田真弓・北山夏季 (2010) 「ウェストミンスターとシアトルにおけるベトナム系住民のコミュニティ比較」『関西大学総合情報学部紀要「情報研究」』33.
- Lê Văn Đức, *Tự điển Việt Nam*, Nhà sách Khai Trí, 1970.
- Phan Đỗ, *Nói chuyện với người Mỹ*, Nhà xuất bản Chấn Lợi, 1966.
- Nhóm Thực Hiện Từ Điển Việt Nam Tại Hải Ngoại, *Đề nghị thống nhất cách viết chữ quốc ngữ*, Hùng Sĩ Việt, 2013.
- Trung tâm từ điển học, *Từ điển tiếng Việt*, Nhà xuất bản Đà Nẵng, 2011.

付記

本件論文は科学研究費補助金基盤研究 C (課題番号: 25370504 『在外ベトナム人の言語動態観察によるベトナム語の言語変容の記述と解明』研究代表者: 田原洋樹) および 2015 年度立命館アジア太平洋大学学術研究助成による成果の一部である。